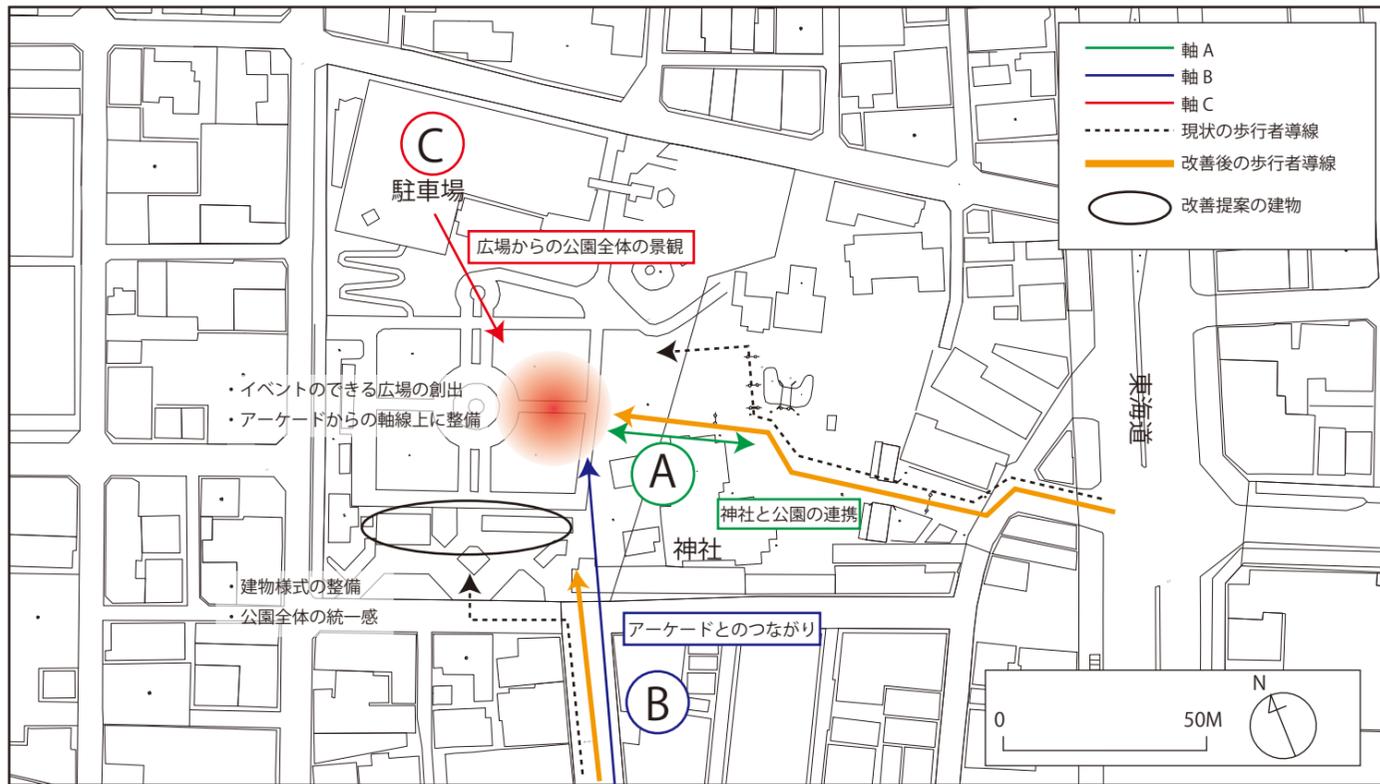


各公園の魅力化の考え方と市民交流施設の計画に際したイメージ

諏訪公園

公園全体の魅力化の考え方：アーケードと一体化した地域の日常の集いの場



A 神社とのつながり
神社と公園の間の植栽を木のトンネルのように整備し、公園と神社を行き来しやすくする。

公園内の建物整備
建物の様式を整備し、隣の神社との合わせることで公園全体に統一感が生まれる。

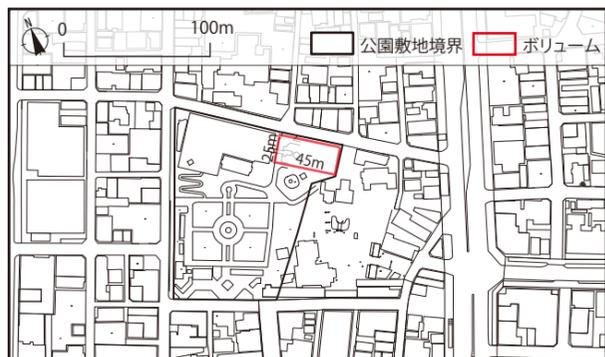
B アーケードの軸線
アーケードの軸線を公園内に取り入れることでアーケードから公園内の様子がわかりやすくなる。

イベントスペースの提案
公園内に広場を設けることで、周囲のアーケードと一体的にイベントを行うことが可能となる。

C 駐車場の整備
駐車場上の広場から公園を見渡せるように植栽の高さや配置を整備しにぎわいがわかるようにする。

子供の遊び場
公園全体に子供の遊ぶ場所を設け、遊具だけでなく子供がのびのび遊べるようにする。(広場など)

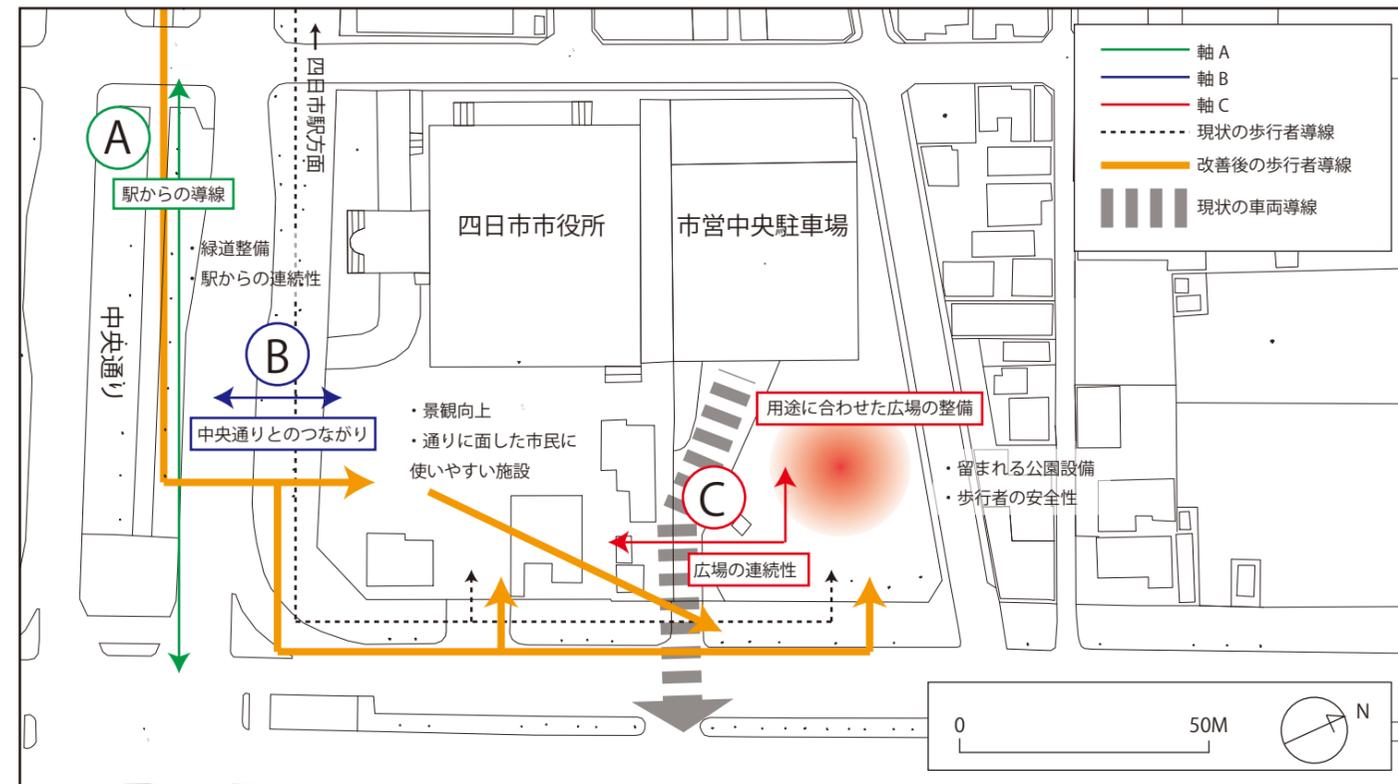
市民交流施設の計画に際したボリュームシミュレーション



建築ボリューム			
・建築面積	900㎡	・階数	5階
・延べ床面積	4,500㎡		
属性			
・用途地域	商業地域		
・敷地面積	11,011㎡		
・建蔽率	80%(建築面積上限8,809㎡)		
・容積率	400%(延べ床面積上限44,044㎡)		
・既存建築面積	2,287㎡	・建築面積合計	3,189㎡
・既存延べ床面積	2,729㎡	・延べ床面積合計	7,229㎡

庁舎東側芝生広場

公園全体の魅力化の考え方：中央通りからの繋がりを意識した市民の憩いの場



A 中央通りの緑道整備
緑道を整備し、快適に歩行できる空間とする。大通りを活かし、ランニングのコースとして活用する。

駅からの連続性を向上
駅から芝生広場までの伝統の装飾などを揃えることで、街の景観の連続性を生み出す。

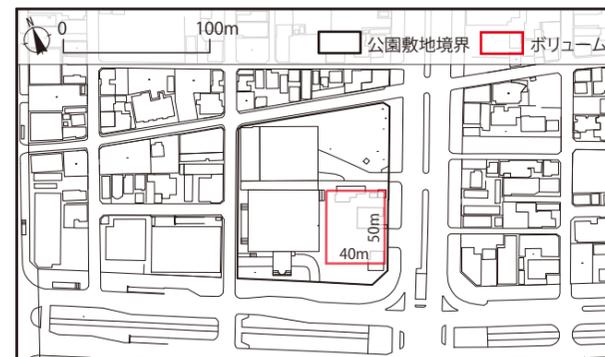
B 駐輪場・倉庫の移動
駐輪場・倉庫を移動することで、中央通りからのアクセスや景観を向上させる。

大通りを活用した施設機能
歩道の広さを活かした露天やカフェ、及び、既存の機能を活かしたレンタサイクルの拠点を提案。

C 広場の整備
子どもが遊べるような丘や、市民がゆっくり留まれるような対面型のベンチを設置する。

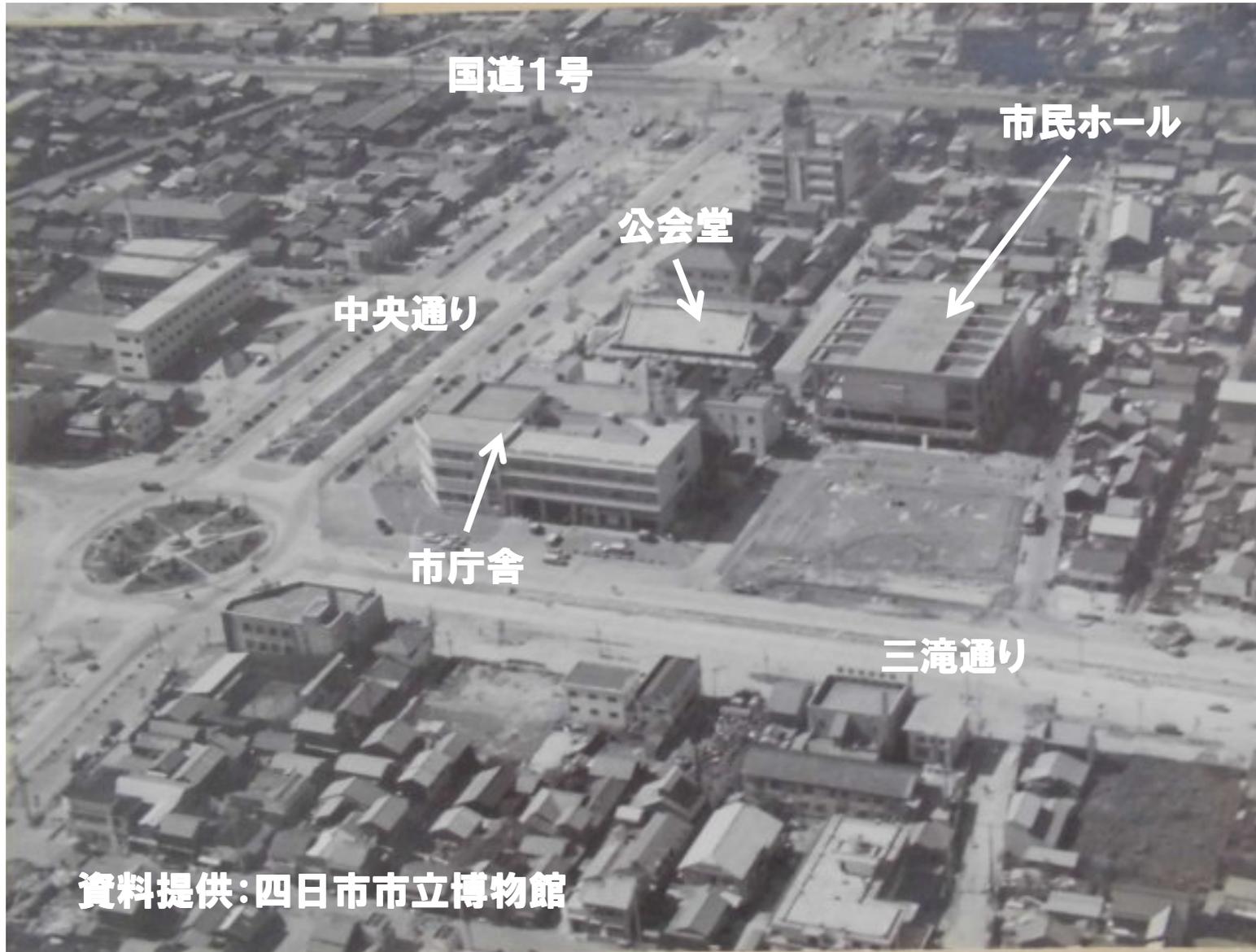
立体駐車場入り口の整備
横断歩道や陸橋の設置や、入り口の移動によって安全に歩行者が通れるようにする。

市民交流施設の計画に際したボリュームシミュレーション

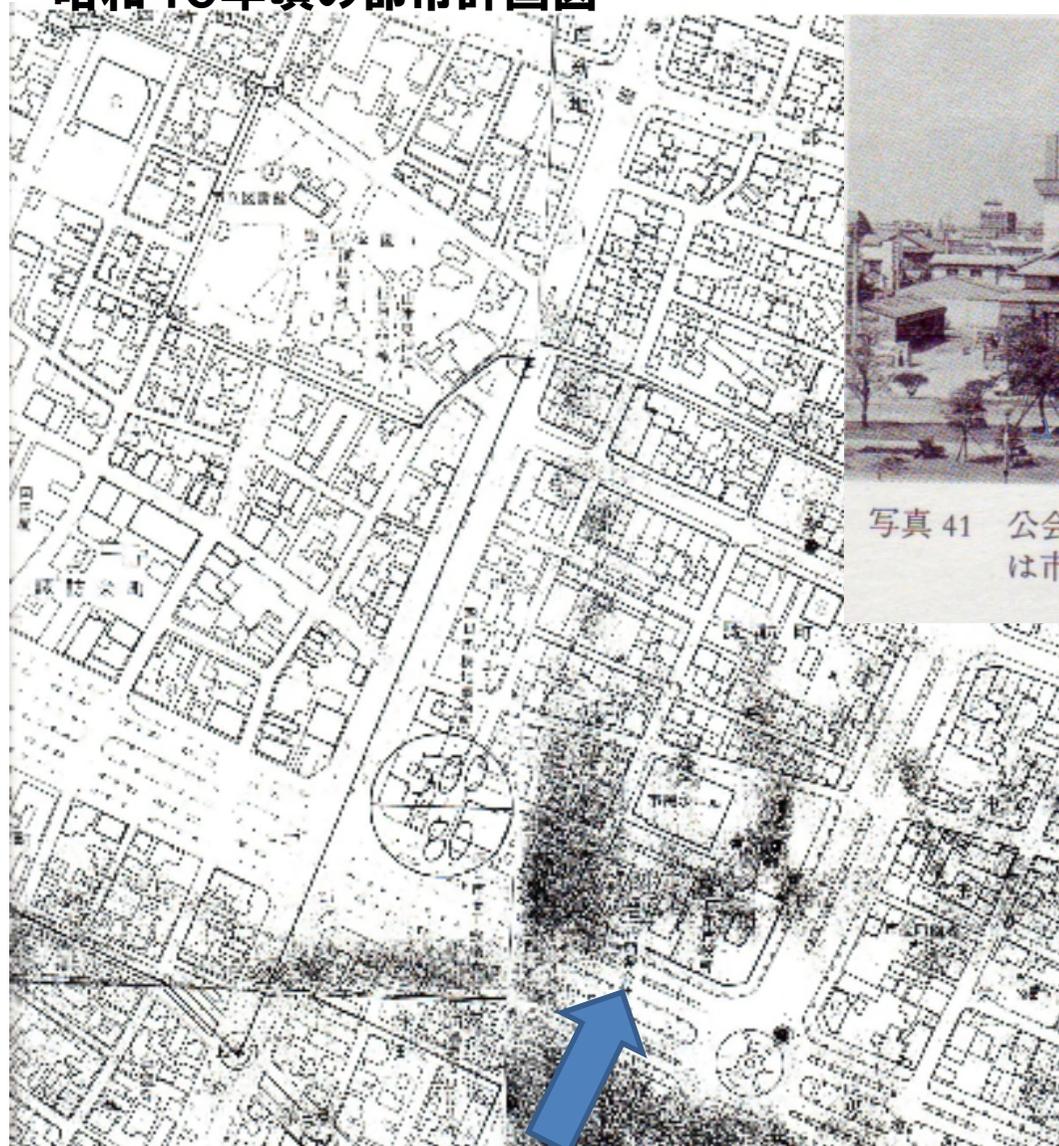


建築ボリューム			
・建築面積	2,200㎡	・階数	5階
・延べ床面積	11,000㎡		
属性			
・用途地域	商業地域		
・敷地面積	12,208㎡		
・建蔽率	80%(建築面積上限 9,766㎡)		
・容積率	500%(延べ床面積上限 48,832㎡)		
・既存建築面積	4,518㎡	・建築面積合計	8,718㎡
・既存延べ床面積	35,592㎡	・延べ床面積合計	46,592㎡

昭和35年頃の市役所周辺の様子



昭和40年頃の都市計画図



■新しい拠点施設の管理運営

- 様々な機能が同居することで、思いがけない新たな交流や活動を生み出す。
- それぞれの機能の日常の運営は民間活力を活かして、朝から夜遅くまで利用可能とする。
- ハード・空間的にもソフト・運営面でも、長期間愛着が持たれる施設づくりを目指す。

■導入機能イメージ

- まちなかの居場所スペース（ライブラリー、子どもプレイスペース等）
- ホール・スタジオ・展示・交流空間
- まちづくり祭事組織の活動拠点—四日市のまちづくり・祭事のプラットフォーム機能
- 軽飲食できるワークショップスペース（カフェ併設）
- 屋外・オープンスペース

■運営方法

- 魅力的な運営体制を目指して、行政だけでなく、市民（個人・団体）、事業者などさまざまな主体が関わる仕組みを構築し、運営を行う必要がある。

■事業化にあたっての課題

- 市内の公共施設の集約、統廃合
 - 公共施設整備は、市内（特に中心市街地）の施設の現状や課題を所管の枠を超えて網羅的に把握し、その中で機能の集約を図るなど効率的・計画的な施設整備を検討する必要がある。
- 現状だけでなく10年後、20年後を見据えた施設づくり
 - 健康管理や図書などの文献もICTで当たり前のように使える時代になるなど、現在とは市民生活自体が全く変わる可能性がある。新しい施設づくりを検討する上では、現状だけでなく10年後、20年後の将来を見据えることが必要である。
- キーパーソンの発掘と事業の結びつけ
 - 中心市街地の活性化に資する事業を進めるため、キーパーソンと新たな事業を上手く結び付ける必要がある。既に活動している人、地元出身者で市外で活躍している人など発掘していく必要がある。
- 魅力ある施設づくりに向けた事業手法の検討
 - VFM を優先させれば民間活力を活用する手法はPFI、指定管理制度などの手法がある。その一方で、長年にわたり市民に親しまれ質の高い魅力ある施設を整備するため、デザインのルールを定めた上で設計コンペや事業プロポーザルを行うことも考えられる。
- 自立的な事業を支える「まちづくりファンド」
 - 中心市街地における魅力ある施設づくりや空き地・空き店舗活用など自立的な事業を促進するため、まちの長期イメージを作成し、そのイメージにふさわしい事業に対して出資する「まちづくりファンド」の仕組みもある。

■新しい拠点施設の機能と管理運営イメージ

